

迎春

石 鎚 社 報

発 行 所

〒793-8555
愛媛県西条市西田甲797番地

石鎚神社・石鎚本教
電話 (0897) 55-4044

1・2月号



道

「生」の読み方は実に様々あります。

- ・生きる — いきる
- ・生命 — せいめい
- ・生まれる — うまれる
- ・誕生日 — たんじょうび
- ・生い立ち — おいたち
- ・芽生え — めばえ
- ・生える — はえる
- ・生涯 — しょうがい
- ・平生 — へいぜい
- ・生地 — きじ
- ・弥生 — やよい
- ・苔生す — こけむす
- ・早生 — わせ
- ・晩生 — おくて
- ・生業 — なりわい
- ・生魚 — なまざかな
- ・芝生 — しばふ
- ・生粋 — きつすい
- ・生憎 — あいにく
- ・生け簀 — いけす

「生きる」とはこんなに
も多様なのだと教わったよ
うに感じます。皆さまの令
和八年の人生を寿ぎ申し上
げます。

武智。

皇紀二六八六年

令和八年

丙午 ひのえうま 元旦

初春を迎え、謹んで
お喜びを申し上げます石鎚神社 第十六代 宮司
石鎚本教 第六代 管長

武智正人

皇室の弥栄と、日本国の
安泰、世界の平和を、先
達信徒の皆さまのお幸せ
と子孫の繁栄を、心から
お祈り申し上げます。

明けましておめでとう

「明けまして」は、これ
までの状態が終わり、新し
い状態が始まる事。一年の
夜明け。「おめでとう」、人は生ま
れた時にその年の魂を戴き
一才になります。元旦ごと
に新しい年の魂を戴く、そ
の魂の数が、数え年です。つまり元旦はみんなのお
誕生日。お互いの誕生日を
祝う、無事に年を越せて新
年を迎えることが出来たこ
とを、お互いに寿ぎ合う。
お祝いの言葉をお互いに贈
る。素晴らしい言葉だと思
います。

みな様、

「明けまして、

おめでとうございます。」

霊峰石鎚山・神社・本教の
奉祝慶賀の御年を過ごし、
今年はおかげ参りの御年に

昨年神社・本教は、

霊峰石鎚山開山千三百四十年、

石鎚神社列格百六十年、

石鎚本教創立八十周年の、

奉祝慶賀の御年でありまし
た。奉祝式典、奉祝大祭に
は天候にも恵まれ、多くの
信徒の方々のご参拝を戴き、
数々の神賑が奉納され、厳
粛且つ賑々しい日々となり
ました。式典直前、役員に「ご参
集の方々から高揚感が感じ
られる。」と言われ、思わ
ず会場に出てみました。確
かに不思議な「気」を感じ
ました。多くの方々の力で一年間
を練り上げてきたからこそ
の「気」、それが石鎚本教
の歴史として八十年続いて
いるのであろう、とつくづ
く感じた秋の御大祭であり
ました。令和八年おかげ参りの御
年に、皆さまが更にも御神
徳を授かり、福德円満なる
一年間を送られます様、ご
参拝を心からお待ち申し上
げております。

土小屋遙拝殿

御鎮座五十周年 奉祝奉賛会

土小屋遙拝殿の御屋根の
葺替工事に、全国からご奉
賛の篤い御心をお預かり致
しております。この誌面よ
り深く御礼を申し上げます。
工事は十一月下旬、冬季
の為に一旦休止。来春に再
開します。少しく時間がか
かっております事、深くお
詫びを申し上げます。今後
もお見守りくださいますよ
う、謹んでお願いを申し上
げます。本年の皆さまのお幸せと
子孫繁栄を心からお祈り申
し上げます。今年もよろし
くお願いします。

宮司敬白。



謹んで初春のお慶びを
申し上げます

神社・本教 職員

名誉宮司・名誉管長

宮司・管長

権宮司・宗務局長

権宜・宗務局次長

権宜

権宜

権宜

成就社主任

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

権宜

石鎚神社・石鎚本教役員
常務総代・本教理事

湊 照彦

沖野 和義

田窪 一善

高橋 亨

十亀 貴文

加藤 法泰

岡本 嘉孝

藤原 拓

高橋 省司

伊藤 一

山中 将史

勝本 房利

田中 聡哉

秋山 一幸

入江 伸明

藤本 敏男

佐伯 義明

小林 敏朗

宮内 浩一

坪内 統

山内 康治

出原 孝文

三吉 真司

石田 和史

西原 善久

田邊 和彦

梶原 倫子

田島 大悟

浦松 大八

川西 久美

中西 幸男

幸男

参与

下川 栄市

渡邊 博毅

菅 三十四

永井 久

梶川 吉彦

岡本 昇

村井 宗幸

江藤 秀人

平松 史朗

山本眞理子

浦松 強八

西山 安磨

井上 裕之

濱口 公宏

入江 伸明

羽藤 繁雄

坪内 統

沖野 和義

横田 一徳

山中 将史

三吉 真司

川西 久美

加藤 法泰

西田 幸子

加藤 保彦

湊 喜美子

吉田 宏
伊藤 光貞
岡村 信一
平岡 明

澁谷 正俊

岡本 行成

西原 和男

岡中 功

坂本 登

河村 英樹

安岡桂一郎

木村 稔

浦松 傳

宮井キヌコ

松井 憲司

姫野三智広

伊藤 一成

田窪 一善

黒瀬 貴久

秋山 一幸

岡村 信一

安岡桂一郎

森 文成

江藤 秀人

田邊 和彦

中西 幸男

佐伯 良子

越智 節子

木村 稔

井上 忠史
深川 健二
山田 春治
片岡 抄織
石鎚本教 教会聯合会
会長 佐伯 良子
副会長 湊 喜美子
江藤 秀人
深川 健二

越智 汀祐
勝本 房利
肥田真由美
田島 大悟

敬神婦人会
会長 島本 貴代
副会長 佐伯 京子
石崎美智子
難波江千春
城戸留里子

青年部
会長 村田 和也
副会長 寺川 卓
十亀 慶彦

令和七年十二月十日現在
(順不同敬称略)

☆ご案内☆

第七十六回

石鎚本教所属教師講習会

三月六日(金)～三月八日(日)

第七十六回石鎚本教所属教師講習会を本年三月六日から八日の日程にて開催致します。

本年も昨年に引き続き第一部を実施致します。「先ずは、正坐が出来て足腰しっかりしている方を対象」主たる講義内容は「基礎作法と神前奉仕の心得、更に実践」です。また内容は、その都度熟達度を鑑みて進めさせて頂きます。尚、希望されます方は、申し込み用紙の第一部の欄にお間違えなきよう記入してください。

各組合・教会・遙拝所所属の将来を担う教師志願の皆様、今以上の研鑽をとお考えの教師の皆様、志ある多数の皆様にご参加いただきますようご案内致します。

受講規定

記

- 一、先達であること
一、教会所属の方は教会長の承認・推薦、遙拝所所属の方は遙拝所長および教区長の両名の承認・推薦、無所属の方は教区長の承認・推薦のある者

※(特別な事情がある場合は本社までお尋ねください)

一、裸行に参加の事

(行衣は各自持参)

一、終了奉告祭に祭員として奉仕の事(見学不可)

一、期間中の遅刻・早退・中座は認めません

日程

◎集合

・三月六日午前七時

(前日五日の宿泊は無料。)

※前泊は基本的に県外の方が対象です。

◎駐車場

・第一駐車場右手青い建物方へお願い致します。

◎受講料

・三万円

(期間中の賄い等の費用)

著衣・教本・昇進料等は別途

◎持参品

筆記用具・白衣・襦袢・帯・白袴・白足袋・草履・笏・印鑑・教本

式大成・教師必携・裸行用禪男性・裸行用行衣(女性用)・着替え・洗面用具・ねまき(白い物)

※尚、講習会前日の午後五時より当日の正午迄、京都の装束竹重さんが、会館二階にて装束の販売を致しております。ご利用の方はお尋ねください。

申し込み期限

◎二月十五日(厳守)

《教師志願初めての方について》

① 先達資格を有する事

② 講習受講者である事

③ 教会所属の者は教会長の承認・推薦(署名・捺印)。遙拝

所所属の方は遙拝所長および教区長(崇敬組合長)両名の

承認・推薦(署名・捺印)。無所属の方は教区長(崇敬組合

長)承認・推薦(署名・捺印)のある者。※署名・捺印無

き申請書類は受理出来ません。

④ 本社の要請に応じられる事

⑤ 住民票と本籍地発行の身分

証明書を準備の事

⑥ 無所属(当社・当本教の教会・遙拝所に所属無し)の方は、教

師資格修得後一年以内に当社・当本教の教会・遙拝所に所属

することを必ず要する。

《教師昇進について》

① 講習会を受講の事

② 星祭り・大麻のお世話につ

いて願書に必ず記入の事

③ 教会・遙拝所への協力・奉

仕のある者

④ 本社の要請に応じられる者

⑤ 右、規定に該当し、規約に定

める年功に該当承認・推薦

のある者

《祈祷免状について》

◎次のページを参照ください。

※当社教会・遙拝所に所属の方のみ申請を受付致します。

※教師資格・祈祷免状取得者の中に、教師義務金の滞納、星祭り・大麻のお世話なき場合、規定年数を超えたと、教師資格・祈祷免状の取り消しと台帳削除を致します。ご考慮ください。

以上

ご不明な点お問い合わせは、本社曾我部洋輔までお尋ね下さい。



(講習会写真)



(講習会写真)

石鎚本教所属教師講習会

祈祷免許の申請について

石鎚本教所属教師講習会並びに祈祷免許申請の案内状は崇敬組合長・各教会・遙拝所宛に、十二月末発送。

【祈祷免許申請資格】

※当社教会・遙拝所に所属の方のみ申請を受付致します。

①教師講習会五回以上受講、内、本社講習会を二回以上受講。

②過去三年間、毎年神社大麻十体以上・星祭祈願三十体以上の奉仕実績。

(※教会・遙拝所所属後、無所属の者は、過去三年間、毎年神社大麻二十体以上・星祭祈願八十体以上の奉仕実績を要す。)

③お山開き大祭に十名以上の先達奉仕のある者。

④教師階級は中講義以上。(中講義同時昇進申請可能)

⑤預かり賽銭のお世話人の実績。

⑥教会所属の者は教会長の・遙拝所所属の者は遙拝所長及び教区長の・無所属の者は教区長の承認、推薦のある者。(特別な事情がある場合には、本社迄お問い合わせ下さい)

⑦将来、講社・遙拝所の組織結成・設立に志せる者。

『祈祷免許申請申し込み期限』

令和八年一月三十日

『審査概要』

①『教師講習会開催迄の事前課題』(未提出者は失格)

※事前課題用の奉書紙は、ご自身でご準備下さい。

②『祭式審査』

③『面接』

☆事前課題の内容については、申請後に詳細を通知。

☆指定された各種課題・期限を始め、本社の指示に延滞の場合、申請資格を失います。

☆審査の流れは、事情により若干の変更の可能性有り。

以上

第 76 回本教所属教師講習会

令和8年3月6日～8日

	3月6日(金)	3月7日(土)	3月8日(日)
5-5:30			
6-7-		起床	起床
8-		禊行	禊行
8:30-8:45	集合・受付(7時～7時30分まで)	朝拝神事・記念撮影	朝拝神事(御神像拝戴)
9-10-	開講奉告祭	清掃・朝食	清掃・朝食
11-	開講式	行事作法 8時40分～11時55分	講話 8時45分～9時45分
12-	神社・本教の概要		配列確認・習礼 10時00分～11時50分
12:40-	作法講習(基礎作法)		
17-	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
17:30-	作法講習(基礎作法とその解説)		装束着装 12時40分～13時15分
18-	行事作法	行事作法	終了奉告祭 13時20分～14時40分
18:30-	神道作法		閉講式 14時40分～15時00分
21-	夕拝	夕拝	解散 15時00分～ ※都合によりプログラム変更場合があります。 ※今回も、講習後の本社の宿泊はございません。
	夕食	夕食	
	入浴(20時50分まで)	入浴(20時50分まで)	
	就寝	就寝	

講師紹介

石鎚神社宮司・石鎚本教管長
石鎚神社権宮司・石鎚本教宗務局長
石鎚神社権禰宜
石鎚神社豊友会

武智 正人 先生
十亀 博行 先生
勝本 貴大 先生
諸 先生

教区長(崇敬組合長)名一覧表

令和7年11月1日 付

組 合 名	組合が包括する区域	組 合 長 名	住所・郵便番号・電話番号
東 予	愛媛県の新居浜市以東 香川県・徳島県・兵庫県以東	藤本 敏男	徳島県美馬市脇町木ノ内3621 〒779-3620 TEL 0883-53-8954
西条周桑	愛媛県の 西条市	佐伯 義明	愛媛県西条市小松町妙口甲106-4 〒799-1104 TEL 0898-72-3954
今治越智	愛媛県の 今治市・越智郡	小林 敏朗	今治市玉川町小鴨部甲531-6 〒794-0112 TEL 0898-55-2725
中 予	愛媛県の 松山市・東温市	宮内 浩一	松山市北梅本町甲2248-2 〒791-0242 TEL 090-6889-0973
上 浮 穴	愛媛県の 上浮穴郡	坪 内 続	上浮穴郡久万高原町日野浦7030 〒791-1503 TEL 0892-56-0378
南 予	愛媛県の伊予市以西 南宇和郡まで	山内 康治	西予市宇和町卯之町4-410 〒797-0015 TEL 0894-62-5533
高 知	高知県全域	出原 孝文	香南市野市町西野370-3 〒781-5232 TEL 090-7144-8024
東洋大心	岡山県と 広島県東部の一部	石田 和史	岡山県井原市井原町1311 〒715-0019 TEL 0866-62-0141
備 後	広島県中部より東	西原 善久	広島県尾道市向島町16060-45 〒722-0073 TEL 0848-45-3556
安 芸	広島県中部より西	三吉 真司	大竹市玖波町203 〒739-0656 TEL 0827-57-5278
山 口	山口県・島根県・鳥取県	田邊 和彦	下関市松小田306 〒752-0931 TEL 083-245-0666
福 岡	佐賀県・長崎県・熊本県 鹿児島県・福岡県全域	梶原 倫子	北九州市門司区大里戸ノ上4-2-22 〒800-0024 TEL 093-372-1101
大 分	大分県・宮崎県	田島 大悟	佐伯市弥生大字井崎1897-2 〒876-0111 TEL 080-8378-6821



第五十五回
石鎚山三十六王子社
巡拝報告
令和七年十月二十四日、
二十七日

さんじゅうろくおうじしゃ いしづちおおかみさま みこがみ さんじゅうろくしゃ
《三十六王子社とは 石鎚大神様の御子神さま三十六社》

〔王子社とは、石鎚大神様の御子神様の御社〕
〔霊峰石鎚山中の、三十六カ所にお祀りされている〕
〔古来、先達は三十六王子社を巡拝しつつ、御山に参詣した〕

石鎚本教教会聯合会主催三十六王子社巡拝行が、三泊四日の行程にて行われました。本年は総勢十九名にて巡拝致しました。全国各地より三三五冊「祈願納め札」の総計四三一名のお申込みを頂き、各王子社では皆様方の祈願札の読み上げをし、それぞれの王子社の納め箱に奉納致しました。大神様と御子神様のお導きを頂き、四日間の行程も良き天候に恵まれ、怪我無く、全行程恙なく巡拝行をさせて頂きました。皆様から寄せて頂きました「祈願納め札」は、各王子社の納め札箱に一年間奉納、またこの巡拝行にて、各王子社の祭事で読み上げました「祈願読み上げ札」は、本社本殿内に一年間お納めして御加護を賜ります。

今回の三十六王子社巡拝行にて、ご理解・ご協力頂きました組合・教会・遙拝所・講社等の関係各位の諸先生方にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

併せまして本年も心温まるお接待をして頂きました、下関教会様・福岡神和教会様・吉田教会様・極楽寺様、誠に有難うございます。

本年「祈願納め札」を十冊以上お世話頂きました方々のお名前を掲載致します。

- ・ 福岡県 福岡神和教会 佐伯良子
- ・ 広島県 村上純子
- ・ 熊本県 肥国合神遙拝所 日高智美
- ・ 広島県 広島西教会 初谷忠彦
- ・ 愛媛県 吉田教会 越智汀祐

(順不同・敬称略)

以上ご報告とさせて頂きます。

文責 権瀬宜 曾我部洋輔

御初穂米 奉納

連続五十六年

東洋大心崇敬組合

広島県福山市

中津原 遙拝所

最高功労章 金之笏 拝受

高原 政明 元老大顧問

大講義



奉納者 八一名

御初穂米 一一一袋

十一月九日

令和七年十一月九日(日)
中津原遙拝所より遙拝所長高
原政明様を始め三十二名の皆
様が奉納者を代表し、本年収
穫した新穀を御奉納されまし
た。

当日早朝より広島県福山市
を出発され、本社本殿内へと
信徒の皆様と神職職員にて搬

入いたしました。御奉納され
た新穀の袋が積み上げられた
様はまさに圧巻であります。



その後、御神像拝戴神事を
齋行に併せ、信徒の皆様のも
れぞれの感謝と祈りを御祈念
御奉仕させていただきました。

御奉納いただきました新穀
は十二月一日の新穀感謝祭に
お供えし、お山開き大祭を始
め、春秋大祭、各行事に使わ
せていただいております。長
年にわたる御奉納にこの場を
お借りしまして御礼申し上げ
ますとともに、遙拝所にかか
りある皆様方のご健勝とご
多幸を祈念しつつご報告とさ
せていただきます。

以下、御奉納の皆様の御芳
名を掲載いたします。

(順不同敬称略)

松井 憲司	山本 慎治
松井 大記	松井 千紘
池ノ内幸徳	大宮 正喜
(株)SC	柴田千重子
柴田 哲男	高原 誠
高原 政明	多田 芳子
戸田 恒司	戸田 有治
藤波 定実	西嶋 進
安達 拓也	安達 稔
安達 直也	アベックス(有)
荒川 士郎	荒川 文子

荒川 弥生	池本 康年
岩佐 全純	浦部 由明
大塚 輝昭	大塚 元美
大塚 庸弘	岡原 淑子
岡本富美夫	柏原 一郎
柏原 一夫	柏原 良紀
柏原 敏子	金尾 勇
金尾 美苗	金野 彰子
川相美代子	川相 蓉子
北村 昌子	北村 暢康
城戸 英昭	城戸留里子
倉本 美枝	桑田幾治郎
桑田 悦子	桑田 高志
桑田力ツ子	香西 綾子
香西 和子	坂中貴美代
坂本 健司	坂本 友宏
坂口 勝政	佐藤 秀治
佐藤 義定	柴田 光江
園尾 裕	第二精油(株)
田頭 照正	高垣 豊子
高橋 義典	高橋 和宏
高橋 保子	高原 輝人
土屋美千子	寺田 洋芳
豊田 尚子	中山金網(株)
橋本 政人	橋本 敏子
花岡 豪	広瀬 満幸
福井 史菜	藤波 光司
三木 靖加	三好 美寛
小島 満明	小野田正弘
小野 照子	

記 権称宜 勝本

奉納 アマノマイ・ターラの舞

去る令和七年十一月十一日

に石鎚神社中宮成就社・口之宮本社にてアマノマイとターラの舞の奉納がありました。

素直な感想ですが、素敵・綺麗・感動をどう表現したらいいか悩むくらいとても良かったです。この舞の代表者、竜宮沖縄県在住の小嶋さちほさん、和歌山県熊野在住の地引知子さん、このお二方を中心に、全国各地から総勢二十四名の有志の方々が石鎚山に舞と音魂を届けて下さいました。



舞奉納の皆様は十一月八日より本社社務所二階にて舞の稽古(合宿)をして絆を深め本番に臨んでいました。舞の振り付けだけでなく身体の中もベジタリアンで動物性食品を一切摂取せずに日々を送り食生活だけでなく、衣食住全般に留意しています。正に石鎚山頂の登拝前の精進潔斎と

奇しくも同じでした。



本番当日十一月十一日より中宮成就社にて正式参拝した後にアマノマイを奉納して頂きました。



アマノマイとは、沖縄の子供の神人さん(かみんちゅ)により、久高島で降ろされた五つの「太陽の紋章」をもとに巫女舞の名手により起こされた舞のことです。



十一日十五時より口之宮本社にて御神像拝戴を受けた後アマノマイとターラの舞を奉納して頂きました。

ターラの舞とは、観音様の慈悲の涙から生まれて時と場にに応じて二十一の姿に変化して人々を救う舞になります。二つの舞は心癒される優しさとき折魅せる力強さを感じ、音と舞に乗せて本殿の中心全体が一つになりました。



今回石鎚神社で奉納舞をするきっかけは全国各地で奉納されているなかで、今年三月に四国で初めて徳島で奉納されたことです。『次は愛媛の石鎚神社で奉納したい』とい

う言葉が地元の方の耳に入り、あれよあれよという間には進み稽古・当日含めてたくさんの方の御縁で集まった皆様の笑顔と美しい舞でした。



全関係者の皆さんのおかげで無事了えることが出来ました。感謝という言葉しかありません。次回も奉納して頂けることを楽しみにしています。



光の舞TOMOさん 小嶋さちほさん

記 権瀬宜 田窪 芳弘

令和七年度 企業崇敬者大会開催

令和七年十一月二十九日、本社御本殿において企業崇敬者大会が開催されました。

この企業崇敬者大会には、常日頃より石鎚神社を崇敬、参拝して頂いている企業の方々に御案内をさせて頂いています。

当日午後二時より、本殿にてお越し頂いた皆様の益々のご活躍を御祈念した祝詞を奏上し、御神像拝戴神事を執り行いました。神事後、御本殿にて曆に関する説明や、神社大麻を始め神棚の祀り方、星祭祈願祭のご案内についてお話をさせて頂きました。その後、神社会館一階へ移動し、参加企業様同士の交流の場として名刺交換をしていただきながらご歓談いただく交流会のお時間を設けて、今年の企業崇敬者大会は無事閉会となりました。

当日、御多端な折りにも関わらず、参加頂きました企業の皆様、誠に有り難うございました。ここに順不同敬称略にて、お名前の紹介をさせて頂きます。

【参加企業社名・参加者名】

プロスパー(株)

井原工業(株) 松山支店

美容室 おはな

富士船舶装備(株)

八陸物流(株)

(株) イナミコーポレーション

山田智淳

(有) ワイエムテック

山本俊介

中島運送(有)

(株) 村上建材社

トータルホームサービス

電器空間

(有) あさみ自動車

(株) A M C

みつきのべんり屋

ベエルシバ構造一級建築士

ドアーズ・カンパニー(有) 事務所

ドラゴン

(有) 坂上工事

ひよっこり居酒屋 幸

弁護士法人M Y O

あいあい亭大在店

(株) リスクマネージメント

トランスモーター

(株) アルファデザイン

(株) インフィニティ

コーポレーション

仁幸産業(有)

カクサン食品(株)

大倫工業

都築用典

参加企業 三十社

御神像拝戴 五十五名

来年も十一月最終土曜日の開催を予定しております。企業関係の皆様方がご参加いただける様に準備して参りますので、多数のご参加をお待ちしております。

企業の皆様の御発展と御多幸を祈念致しまして御報告とさせて頂きます。

記 権瀬宜 勝本



新入職員紹介

な が い あ き ほ
巫女 永井 秋帆



この度、石鎚神社の巫女として奉仕させて頂くことになりました。永井秋帆と申します。

私は八月二十三日の巫女体験会を通じて、巫女という職業に興味を持ち、また、石鎚神社の職員の皆様の人柄の良さに惹かれたのがきっかけです。

巫女としての職業は初めてで、至らぬ点も多くあると思いますが、一つ一つ真摯に学び、精一杯努めてまいります。なにとぞ、温かくご指導いただけたら幸いです。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

宇和教会 教会長就任奉告記念大祭

令和七年十一月二十四日齋行



長講義・新教会長
洋野 牧野 名誉部長

方が、石鎚大神様の御神意に添い、益々の石鎚信仰の啓発と精進に邁進されます事を心より切にお願い申し上げます。更には地域活性化に御尽力され宇和教会の益々の御発展を祈念申し上げ報告申し上げます。

権禰宜 山崎

遡れば、昭和五十一年東宇和遙拝所より石鎚信仰の灯火を山内初穂初代所長がともされ、平成に入り梅原康孝先生、山内康治先生と引き継がれ、今般新に牧野 洋教会長へ引き継がれました事は慶賀の極みであります。目出度く令和七年十一月二十四日、本社より大岡祢宜、山崎権禰宜が出向し、教会長就任奉告記念大祭が齋行されました。

西予市は日々の寒さに、綾錦を纏った山々が艶やかな衣を纏い、命の息づく溪谷が煌びやかに頬を染め始めておりました。祭典では、祭員皆の引き締まった所作に厳かな空気を感じさせて頂きました。これからは、牧野教会長を中心に役員・お世話人の皆様



祭典の様子



牧野教会長 祝詞奏上

二月一日～三日 神事案内

二月一日

午前十時から

月次祭・

教会聯合会年賀厄除祭

二月二日

午後五時から

星祭り祈願納め宵宮祭

二月三日

午前十時三十分から

古神札神納浄火祭

昨年までの古い神札を、浄火を以て焼き納めます。

午前十一時から

星祭り祈願納め祭

併せ 節分祭

お申し込み頂きました方々の星祭特別神札を去る冬至の日（十二月二十一日）より神職が朝夕に祈願を続け、節分当日の祈願を以て満願となり、祭典終了後、お世話人各位へお渡し致します。（郵送希望の方は二月三日以降に届くこととなります。）

引き続き

御神像拝戴神事

厄祓い豆まき

福引き入り福豆授与

招福うどん振る舞い

（無料、数に限りあります）

福引き交換、招福うどん振る舞いは十五時に終了致します

のでご注意下さい。



厄祓い豆まき

愛媛プロレス石鎚山太郎
愛媛マンダリンパイレーツの
マッピー君がやってくる！

第12回 お宮 de 文化祭

奉納 いしづち泣き相撲



片男波親方・大相撲力士が来社

令和8年5月6日(水・祝)

【午前の部・9時30分から/午後の部・13時から】

石鎚神社～本社本殿(受付:それぞれ30分前 本殿前参集殿)

※境内では10時から「お宮 de 文化祭」を開催しています。

参加資格～首がすわっている、生後6ヶ月くらいから
2歳くらいまでの赤ちゃん(男児・女児は不問)

定 員～午前・午後、各100名の計200名。

参 加 料～10,000円

(健康祈禱・お守り・参加記念品 含む)



参加募集要項

参加申込書には後日詳細をお送り致します

★申込方法 参加申込書に記入の上、FAX・郵送もしくは石鎚神社へ持参下さい。

★申込開始日 2月15日(日)より

★申込締切日 3月31日(火)まで。 ※定員になり次第、締め切らせて頂きます。

以降の申込は神社までお問い合わせ下さい。

★参加料の納入 赤ちゃん1人につき 10,000円を、当日受付にてお納め下さい。

(きりとり線)

参加申込書 (午前の部・午後の部) どちらかに○を。 希望に添えない場合もあります。

郵便番号			
住所			
保護者名	ふりがな:	電話番号	
お子様名	ふりがな:	男・女	誕生日 令和 年 月 日生 (歳 ヶ月) 3月31日現在
お子様名	ふりがな:	男・女	誕生日 令和 年 月 日生 (歳 ヶ月) 3月31日現在

主催: いしづち泣き相撲実行委員会 特別協力: 石鎚神社・NPO法人石鎚森の学校

お問い合わせ 石鎚神社内 「いしづち泣き相撲」係。 担当: 十亀博行・曾我部洋輔
TEL: 0897-55-4044 FAX: 0897-55-7242

明けましておめでとうございます。
旧年中は頂上山荘をご利用いただきありがとうございました。
本年もよろしくお願いいたします。

予約受付開始

1月20日10時～

(電話受付を優先します)

※電話受付時間

1月～4月：9時～16時
5月～10月：8時～19時

営業期間

5月1日～11月3日

(気象状況により変更する事が有ります。)

予約・問合せ [石鎚神社頂上山荘]
☎080(1998)4591

1泊2食付き

大人：13,000円(税込) 小学生：7,000円(税込)

会符割り：2,000円

◆宿泊について

◎宿泊人数1日限定25名とさせていただきます(完全予約制)

※6月28日～7月10日は予約不可

◎推奨ご持参品

- コップ
- ゴミ袋(売店で購入いただいた物含め、ゴミは全てお持ち帰りをお願いします)

◎ご予約・現地受付

- 宿泊者全員の名簿提出

※37.5℃以上の熱がある場合や体調が悪い時はキャンセルをお願いします。

(キャンセル料は頂いておりません)。

山のタヌキの

徒然日記 (5)

ほろろ年の暮れにもなると、この成就の杜の木々も時折樹氷の花を咲かせて澄んだ青空に映えて麗しいのう。



赤や黄色の落葉した葉に代わって白い氷の花が咲いて陽に煌めきよる…。まさにそれぞれが「世界に一つだけの花」じゃわい。ん!?こんな歌もあった様な(笑)

※「世界に一人だけの郵便屋さん」のこと。

そういえば、お山も高山植物の類や固有種など、ここだけにしか開かない花も多いのう。オッ!?ここだけというたら花だけじゃのうて知る人ぞ知る愛媛県? いや四国に一人! いや日本に! ということは世界に多分お一人の郵便屋さん

が居る! 日曜祝日以外は、雨の日も風の日も雪の日もロープウェイを下車して三十分程の登山道を歩いて標高一四五〇メートルの成就地区まで郵便物を届けてくれる。誰かって?



そう! ホラ貝を吹くお山の郵便屋さんこと「山本篤幸さん」じゃ!

寺が組織する「石鎚立螺の会」が認定する階位四段の正當な実力者。下界でも愛媛県や各市のイベントに始まり、神社仏閣の神事、行事などで県外へも要請に応じてお仲間と吹鳴奉仕に向。その件数は今までに優に百件は超えておるとのこと。石鎚流の立螺の音が世に拡がるのは、お山に住むタヌキのわしも嬉しいことじゃ。



※成就社の神事で吹鳴

そういえば、年間を通してここ成就の杜にやって来るNPO法人石鎚森の学校のツアー参加の方へも請われるままに事務局スタッフの様に気さくに吹鳴を披露され喜ばれておったのう。また、時間があればご自分でもご来山の方を境内の山頂絶景スポットにご案内して吹鳴♪特別な石鎚

山らしい思い出を提供して結果、石鎚山のファンづくりに貢献もされとる。そうしたホラ貝の音を聞いて大自然の中で涙するお人や再入山して山本さんの法螺吹鳴を耳にして、以前より元気が出てこままで登れたと話してくれたりもする。

※ツアー参加者の前で披露



山本さんが法螺吹鳴を始めたきっかけは、十数年前にここ成就社境内の旅館やロープウェイさんの正月参拝者の方への記念新春企画の抽籤で、様々な賞品の中からたまたま「ホラ貝」があたり初めて手にしたらしく、その後色々なお山のご縁で折角だからと吹鳴法を教わり練習を積んだようじゃ。そして: 気が付けば唯一無二の「ホラ貝を吹くお

山の郵便屋さん」になっておったと…。

ひよっとしたら、お山の神様が山本さんご指名で「ホラ貝」を進呈したのかも知れんのう。山本さくん！これからも麗しいホラ貝の音色でお山を訪う皆さんに石鎚山の素晴らしい素敵な思いでをプレゼントすべく「ファイト」

※「毎月山頂を目指して月参り四十年」のこと。

日本七霊山、百名山、西日本最高峰、国定公園などなどとお山の肩書？も多く、それもあるか色んな人間様が昔から登ってきた。まあ、その中でも役行者さんが開山したといわれるだけあって、まず、最初に登ってきたのが修験者さんら、次には武将さんや薬草をかの当時の江戸の小石川療養所に送った採薬師さんら、そうそう、後の石鎚神社半井忠見第二代宮司さんらも江戸の末期、文久二年には山頂に立つとられたわい。そして近代になって冬の山

頂を目指す登山家。ほんで、レジャー登山とやらが一般に拡がり、女性も年間を通して山頂を目指す様になったのは極々最近のことじゃ。

なんでも「高い山の頂に神が住む」との信仰はなんと縄文時代からあったらしいのう。なので、男女の別に関わらず、一般人？は、せいぜい麓の森で薪を取ったり山菜なんぞを採ったりしておった。

時は流れ、オッ！？そういえば、ワシの知つとる人間様で真冬も含め、しかも山口県からじゃったか？もう四十年ほども毎月山頂を目指す修験者さんがある。誰かって？

そう、石鎚本教吉見教会長の加藤法泰さんじゃ！

※吉見教会での護摩祈祷



下関から山頂へ月参り：もっともお仕事や体調の関係で月参りは叶わぬ時もあるらしいが山頂登拝は優に三百回を超えておる。同氏、石鎚本教の教師資格はもちろん、神社本庁の神職資格、更に真言宗の傳燈大阿闍梨の階位を保持しておって我流ではなく、基本と実践を修めて神仏習合の宗教活動を世の為人の為に展開するお方の一人じゃ。

※教会大祭での火渡りの儀式



じゃが、なんでそれほど石鎚山頂を目指すのか：「修験という森羅万象に神あり、山頂の空気を心身で覚えたい。『お山が呼ぶ』という指名的な？エゴや義務、自己本位の考えではなく、『あなたも来るなら来ていいよ』との許される感覚を都度つどに抱き今に再登拝を踏んでいる」と、誰かさんと話しよったのう。

同氏は、ビッケル、アイゼン、ヘルメットを装備して零下二十度を超える真冬の石鎚山頂を体感し、石鎚山以外にも羽黒山など各地の霊山でも山に籠る。そんな修行を積む中に、春夏秋冬の山頂行で温暖帯から亜寒帯に分布する多様な自然をも肌で感ずることが出来るこのお山に修験道という「十界行・『十界』という迷いから悟りまでの十の世界感に基づいてそれぞれの苦しみを身を以て体験、克服するための修行」とやらを見出したんじゃと。ほんで、加藤さんは「この石鎚山は正に修験の山」と断言する。

アツ、だからというていわゆる「堅物」じゃのうて、カメラを持たせてたらお山の自然から夜空までそれは麗しく撮るし、料理も上手で包丁を持たせたら、これまたプロ並みに刺身を切り分け盛り付けよる人間的にも面白いお方じゃ。加藤さくん、これからも伝統あるお山の修験者のお一人として「ファイト」！

文責 相談員 曾我部英司

お初穂奉納者

令和七年十月一日から

十一月末日まで

五万円以上ご奉納いただきました皆様

《土小屋遙拝殿》

◎五万円以上

土居 良之
角田 陽一

《本社》

◎壹百万円以上

西宮市 村上真之助

◎参拾万円以上

讃岐神大遙拝所

大高 久呼

◎五万円以上

佐川教会 片岡 抄織
(敬称略)

また、本社での五万円以上のお初穂奉納者につきましては、本社本殿前掲示板に掲載させていただいております。

頂上社護持奉賛会

寄付者 芳名簿

令和七年六月一日～

令和七年十一月末日まで

※五万円以上ご奉納者

◆高知崇敬組合◆

壹拾万円以上

佐川教会 片岡 抄織

◆福岡崇敬組合◆

壹拾万円以上

福岡神和教会 佐伯 京子
(敬称略)

祖霊殿提灯御奉納

令和七年十一月十一日

西条市 山中 成記
山中 睦美
(敬称略)

大幟旗御奉納

十月二十三日の土小屋遙拝殿のもみじ祭にて『大幟旗』を新たに境内へ御奉納いただきました。

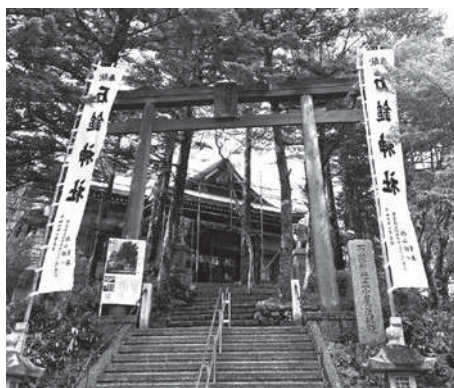
令和七年十月吉日

奈良県生駒市西旭ヶ丘

西山 昭一

重美

※二体奉納(敬称略)



御奉納誠にありがとうございます。

各種、御奉納をお受けしております。

担当 瀬宜 大岡

石 鎚 社 報

〒七九三三八五五五

(発行所) 西条市西田甲七九七

石鎚神社・石鎚本教

【連絡先】電話(〇八九七)

五五―四〇四四 本社

五五―七二四二 FAX

五五―四一六八 会館

五五―七二八一 FAX

五九―〇二〇六 成就

五九―〇四〇八 FAX

五三―〇〇〇八 土小屋

【振替】〇二六八〇〇―一八三六〇

【発行代表者】武智 正人

【編集】大岡 忠徳

【印刷所】ブリ・キユウ・プレス

【購読料】送料共 年五〇〇円



石鎚神社 HP

石鎚神社

で

検索